

知恵産業研究会 立石会頭メッセージ

京都は 1200 年の歴史の中で、洗練された生活文化と産業が培われてきました。昔からの人々の「生き方の知恵」と産学公連携による「知恵インフラ」をベースとして「科学と技術」「匠の技」「デザイン」などの特性が、さまざまな形で融合して、新たな価値を創造するという強みがあります。

一方、我々が生活する社会に目を向けますと、価値観が多様化する成熟社会、地域主権型の分権社会、環境と経済の両立を実現する持続可能社会など新たな社会への移行が顕在化しつつあります。

京都商工会議所では、このような社会の変化に対して、京都の強みを活かして、新たな生き方、暮らし方、街のあり方に関わる社会ニーズを満たすための知恵、即ち、創意工夫、独創力を加え、新たな価値を創造していくことが、地域活力の源泉である中小企業の振興に不可欠であると考えました。

その思いを取りまとめたのが、昨年 11 月に発表した「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針とする「ニュー京商ビジョン」です。

委員の皆様には、これから約1年間かけて知恵産業の具現化への道を拓くという、京都産業界の将来にとって重要な役割を担っていただくわけですが、次の2点にご留意いただきたくお願いいたします。

1つ目は、事業や商品、サービス、業態などのジャンルを特定せず、知恵産業の概念をまとめあげて、広く京都の中小企業を刺激していただくことです。

2つ目は、自社のコアコンピタンスや京都の独自性を通じて、多くの中小企業の参画を促すよう多様な知恵ビジネスモデルを作り上げていく仕組みづくりをして、早く見えるようにしていただくことです。

この2つの点が、知恵産業研究会の重要な視点であり、京都の特性と企業独自の強みを活かしながら、新たな知恵を活かしてオリジナルの技術や商品・サービス、あるいはビジネスモデルを開発し、「知恵の経営」を推進していくことが、地域活性化の決め手になると信じています。

結びにあたり、皆様のお知恵をお借りするこの研究会の活動成果が、京都の中小企業をはじめ、行政、マスコミ、大学、住民などの元気と誇りにつながり、さらには、関西、日本、世界から見た京都の魅力の向上に貢献することを期待して、メッセージとさせていただきます。

平成20年6月11日
京都商工会議所
会頭 立石義雄